

9

■2026年度看護職員負担軽減計画及び2025年度取り組み状況

※A：達成済み B：一部達成/取り組み中 C：未着手・未実施

項目	目標	2026年度取り組み事項	2026年度状況	2025年度状況	2025年度取り組み事項
業務の役割分担	地域包括ケア病棟における手厚い看護体制確保	2023年度も引き続き、看護職員配置加算相当（10対1）の配置を堅持し、病棟間の看護師の業務負担格差解消に努めていく。		A	2023年度も引き続き、看護職員配置加算相当（10対1）の配置を堅持し、病棟間の看護師の業務負担格差解消に努めていく。
	薬剤師による病棟患者の持参薬を含めた処方管理及び服薬指導実施	診療報酬対象病棟の急性期病棟のみならず、非算定対象の地域包括ケア病棟へも専任薬剤師を引き続き配置し、医師及び看護師との連携を強化する。		B	診療報酬対象病棟の急性期病棟のみならず、非算定対象の地域包括ケア病棟へも専任薬剤師を引き続き配置し、医師及び看護師との連携を強化する。
	病院ボランティアの活用	患者・職員、またボランティアを行う方々にとってもやりがいを感じることが出来るよう業務を精査した上で、積極的な活用を行っていく。		A	患者・職員、またボランティアを行う方々にとってもやりがいを感じることが出来るよう業務を精査した上で、積極的な活用を行っていく。
	看護補助者配置による業務負担軽減	25対1（5割以上）まで戻すことを当面の目標とし、外国人労働者の採用等も継続して進める。→・夜間勤務の看護補助者継続中・外国人労働者の採用・病棟クラークの配置		A	25対1（5割以上）まで戻すことを当面の目標とし、外国人労働者の採用等も継続して進める。→・夜間勤務の看護補助者継続中・外国人労働者の採用・病棟クラークの配置
勤務体制等	夏季休暇取得推進	引き続き100%の休暇取得を奨励するとともに、休暇取得時における体制・対応についても病院組織としてのサポートにも努めていく。		A	引き続き100%の休暇取得を奨励するとともに、休暇取得時における体制・対応についても病院組織としてのサポートにも努めていく。
	看護師確保による負担軽減	定期採用についてはほぼ希望通りの確保が出来ている状況にあることから、これまでの活動のきちんと継続していくことで、安定的な看護師確保そして離職対策に努めていく。産休要員の人材確保に努める。		B	定期採用についてはほぼ希望通りの確保が出来ている状況にあることから、これまでの活動のきちんと継続していくことで、安定的な看護師確保そして離職対策に努めていく。
	妊娠・子育て・介護職員の支援 ワークライフバランスの推進	引き続き、当院の職員の勤務形態や状況に合った形で制度の微修正を図り、より活用しやすい制度へ適宜見直しを行っていく。		A	引き続き、当院の職員の勤務形態や状況に合った形で制度の微修正を図り、より活用しやすい制度へ適宜見直しを行っていく。
	院内保育所の充実	事業継続に努める。病児保育も検討中		A	再開となった。
	時間外勤務の削減	・日勤帯と夜勤帯の勤務者の制服を分けることで、勤務時間を意識させる ・カエル勤務の導入		A	取組の効果や患者数の減少により、時間外勤務の実績は減少傾向。
	変則時間勤務交代制の実施	引き続き、院内の各部門において同様のケースが想定される場合には柔軟な変則勤務の体制を実施していく。		A	引き続き、院内の各部門において同様のケースが想定される場合には柔軟な変則勤務の体制を実施していく。
夜勤負担の軽減	看護師1人あたり夜勤時間数の管理徹底	急性期病棟・地域包括ケア病棟いずれも72時間未満の1人あたり夜勤時間数を厳守するとともに、70時間以下で継続して配置が可能な看護配置を維持していく。より充実した配置を目指す。		A	急性期病棟・地域包括ケア病棟いずれも72時間未満の1人あたり夜勤時間数を厳守するとともに、70時間以下で継続して配置が可能な看護配置を維持していく。夜勤専従看護師の採用検討を進める。
	長時間夜勤の是正	全病院の取り組みとして、夜勤明けの時間外勤務の解消に努めるべく、課長会等で実際の業務改善に向けた協議を行っていく。		A	全病院の取り組みとして、夜勤明けの時間外勤務の解消に努めるべく、課長会等で実際の業務改善に向けた協議を行っていく。